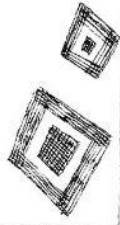


ゆりかご えんたより

2021.9.1

2期(6~9月)のねらい
からだづり活動を通して子と関
係の質を高めよう



七夕まわりの朝、事務室に置いてあるジュースを、3階に運ぶのを子どもたちに手伝ってもらいました。2階のペットボトルです。「オレカ持ちだよ」と、3~5歳児の子が数人やってきて運んでくれました。そこへちょうど登園してきた4歳児のTくんが「あ、オレも手伝いたい!」と

言ったので、「じゃあ(登園の際の)準備が終わったら来てね」と声をかけ、Tくん用に1本よけておきました。先に運び終わった子たちが「まだある?」と戻ってきたので「全部終わったよ。ありがとうね。助かったよ~」と言うとTくんと同じクラスのYくんEくんHくんが「えー、Tもやりたい、って言ったのに!」「Tの分ある?」と心配そうに言いました。3歳児のお手伝いは、自分中心ですが4歳ともなると、友だちのことにも目を向け、自分のやりたい気持ちと同じくらい相手の気持ちにも共感できるのだなと思いました。

さて、お手伝いという、もうひとつ、面白いなと思ったエピソードがあります。食後の食器下げを近くにいた3歳児のSくんに頼んでみました。2階の部屋から給食室へ下げてもらおう手伝いです。私は途中で落としても子どもの自尊心が損なわれないよう布をお預しいしたのですが、「や~だよ」とあっさり断られました。あそんでいる時に頼まれ「このあそびを中断させたくない」という気持ちなのでしょう。ですが、ちょっとしたあそびじから「Sくんには簡単すぎたね。じゃあこれとこれ、どちらをやら手伝ってくれる?」と空の鍋と残菜入れのどちらを手伝うか聞いてみました。Sくんは月令が高く、もう4歳です。最近のSくんは今の自分よりもステキな自分になりたい、とカッコイイ自分を探しているようにも思えたのです。やはり予想通り、難しい方を選びました。「難しいことを頼まれる自分、て、ちょっとステキだな」「ボク、てすごいでしょう」と自尊心がくすぐられたのかなと...。「まだまだ手伝えるからね~」とはりきり続けてくれました。

また、3歳クラスでは午睡前に脱いだ服を入れたカゴを3階に運ぶお手伝いを順番制で取り組んでいます。たまたま居合わせた私が子どもに頼まれ目印を子どものマーク上に移動させたところ、自分のところに目印がきたRくんに「先生ありがとう」と言われました。川貞番と活動が糸吉びついているなかた私が「え、どうしてありがとうなの?」ときくと、「だって嬉しいんだもん」と満面の笑みでこたえてくれました。そうか、自分の番にたまり、お手伝いすることは嬉しいことなんだ。誰かの役に立ち喜んでもらえること、て嬉しいことなんだ。その気持ちを大切に、大きく、くらませる援助をすることが私たち大人の役割りなんだと思ったエピソードでした。

「お手伝い」「お当番」「お仕事」と年令によって活動に込められた原質は変化します。労働への意欲につまみがり責任が伴う活動へと発展してほしいものです。